



鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

第40号

発行:2009年8月15日
発行責任者:
特定医療法人社団 鵬友会
事務局長 池島 守

地域に信頼される医療と看護をめざして

湘南泉病院 副看護部長 片桐恵美子



湘南泉病院に入職して8年目に入りました。当初ではとても考えられなかった病院機能評価を2007年3月に受審し2008年4月に認定されました。このことはやれば出来るという活力を頂き職員の意識改革にも飛躍をもたらすことができました。

現在在宅医療部と健康情報管理室を担当し看護部のNST・院内感染防止活動を行っています。

在宅医療部は増大する高齢者へ医療と介護の切れ目のない在宅療養支援に向けて動いています。病院という体制下での在宅支援は、ケアマネとして動いてみると円滑な業務の流れの中で対応が来て時間短縮というメリットと患者さま・ご家族に安心感を与え感謝されています。

昨年11月に日本リハビリテーション看護学会において訪問看護師が医療的情報をもとに日常生活中心のリハビリテーションを実践し、約2ヶ月の短期間に寝たきり状態から杖での自立歩行が可能になった当院での事例を発表しました。事例から効果的な高齢者リハビリテーション看護の介入はADLの拡大に成果を上げることができて、その結果、訪問看護をする際の患者情報における構成要素を検討し明確にすることができました。

在宅で高齢者リハビリテーション看護を実施する際に考慮すべきこと。(構成要素)

1. 身体的状況を理解するために複数疾患の状況感覚機能の低下を具体的に理解する。
2. 精神的な状況は記憶力、理解力、不安感、孤独感、認知度などの低下を客観的に知る。
3. 医学的根拠に基づいたケア方法を見出す。

などに関与していることが分かり私自身学ぶ機会となりました。このように在宅医療部は2年目を迎え地域に根ざした活動が軌道にのりはじめています。

次に健康情報管理室は、昨年4月から特定健診が開始され健診業務の確立と拡大目的で看護部に設立しました。担当すると業務内容の複雑さに直面しました。各健診の予約・運営手順の整備から着手すると同時に外部的に「健康診断と人間ドックのご案内」を作成し地域へ配布をしました。秋の施設利用者さまの定期健診の新規受注に繋がっており、その後も継続しています。

今春の施設職員と利用者さまの集団定期健診は内科医師と他部門の協力にて4月から6月までの特定検診を含めると約300名以上になりました。データの正確さをモットーに実施し継続的な関わりで信頼を得ていきたいと思えます。

また私は入職オリエンテーションをする機会があります。病院の組織的なことと看護部の紹介に際し、よい看護ケアをすることの大切さと患者さまから信頼される看護師でいてほしいと入職者にその都度伝えていきます。

そして一昨年からは患者主体という視点で、全病棟2回と外来1回の患者さま・ご家族の満足度調査をアンケートにて実施しその結果をホームページでも報告してきました。この結果は、日頃の私たちが看護行動に責任を果たしていたかを評価する機会にもなりました。患者さま・ご家族に期待されていること、平素気が付かないご意見を頂くことができました。

看護への想いは看護現場に活かすことができると信じて今日までやってきました。これからも地域に信頼される医療と看護活動へと発展するようその一員として努力していきたいと思っています。